

社訓誠意

## 社長室だより



2017年6月30日

先日、伯父の33回忌法要があり、久々にお寺の住職の話を聞きました。お釈迦さまが求める最終境地が「空」である。と空とは「何もない」でわなく、全てを受け入れられる空間であり、何事にも対応出来る力をもっている地であり、新たに生まれ変われる地でも有る。心穏やかに万物を受け入れられる地である。と、そこに至る過程に於いて是非皆さんに実践して頂きたいのが「慈悲」のころを持って人と接してほしいと言う事。慈悲＝あわれみ・なさけ と辞書には出ていますが、相手をさげすむのではなく、本来の意味は「いつくしみの心で相手に向かい、自分の出来るかぎりの事を無欲で手を差しのべる事」です。その行為が広がれば、無益な争いは起きません。と説かれました。私はなるほどと直ぐ感化されてしまいました。日常では本当にさりげない行為や声掛けから実践できると思いました。仲間が次の日自分のトラックを使い別の仕事をするのに空箱が邪魔だから別の車に入れて返却してもらおう。とか、空箱代わりに集荷するよ！と声をかけて自分が足を延ばして集荷してやるとか、通常の出勤より早く出てきて空箱降ろしたり、摘んだりするとか、納品時にいつもより物量が多くて積込に時間がかかっていたらサラッと近づいて来て検品や積込手伝ったり、はたから見れば凄くカッコいい。こんな仲間と一緒に仕事したいって思うよね～

逆に、自分の休みの前にあいつは車の中も掃除しない、燃料も入れておかないとか、休み明けに車乗ったらゴミだらけ、空箱は納品先から引上げて無い！と、苦情を聞くのは凄く悲しい。慈悲の心うんぬんのレベル以下と思う程。でも、そういう人への声掛け、行動を先に自分が起こし、接し方を変えたら相手にも通じるものが有ると思うんだ。口元をへの字じゃなくて口角を上げてみると自然に心まで上向きになるよ！やってみない？

7月は東京ではお盆を迎え、ご先祖様が家に戻ってきます。ナスとキュウリの馬に乗って。この月に是非とも住職の話しに耳を傾けご先祖様に手を合わせて合掌してみましょう。何となく気持ちが落ち着くものです。

追伸 熱中症予防にこまめに水分（出来れば水）補給又は飴や塩分タブレットを用意しておきましょう。くらっとしたら脇の下、足の付け根、耳からあごのライン（リンパが流れている所）に氷か水で冷やしたタオルを当てる。服を緩めて少し横になる事。周りの人に具合が悪い事を伝える事忘れずに！

**会社の方針・社長の想い・決意を掲示しました！一読して下さい！**